

2月28日（同窓会入会式祝辞）

「横のつながり」と「縦のつながり」

2月は冬と春が綱引きをしながら、少しずつ、しかし着実に季節は春へと向かっています。春の初めは別れと旅立ちの季節。今思うのは、卒業式を明日に控え、学校を離れる寂しさでしょうか、数日前に国公立大学の試験を受験し、その結果を待つ不安でしょうか、それとも4月から始まる新しい生活への期待でしょうか。いずれにせよ心ざわめく季節となりました。

本日は、同窓会長 林田新一 様をはじめ、役員各位のご列席のもと、第71回卒業生の同窓会入会式が執り行われますことは、大きな喜びであり、心からお祝い申し上げます。

71回生の皆さん同窓会への入会おめでとう。今日から皆さんは口加高校同窓会の会員です。と、言ってもピンときませんね。何でも新しいものほどいいかという、そういう訳でもありません。年数を重ねるごとに段々とその良さ、ありがたさ、価値が分かるものがあります。持ち物でも長く使うことで段々と愛着が湧いてくるものもありますよね。卒業アルバムもそうではないかと思えます。真新しいアルバムもいいものですが、時が経ちアルバムの表紙が色染みし始める頃、表紙をめくってみてください。「こんな時代があったな」とか「〇〇さんはどうしてるかな」と「〇〇君は元気だろうか」と思い出すはずです。そして再会する場、それが同窓会です。同窓会は英語でreunionと言います。“re”は「再び」という接頭語、“union”は「集まり」という意味です。すなわち同窓会とは再び集まる場所のことをいいます。

皆さんはこれまでに「思い出を共有できる仲間がいるっていいな」と感じたことはありませんか。「ああ、そうそう、そがんことのあったね。懐かしかね。」と、過ぎし日の思い出を懐かしんだり、笑い合った経験があるのではないのでしょうか。自分の人生で何物にも代えがたいもの、お金では絶対買えない大切なものがたくさんあります。その一つが、思い出を共有できる仲間だと思えます。これから皆さんは何百、何千人という人と巡り逢うことでしょう。しかし「高校2年生の時に修学旅行で行ったディズニースーランドは楽しかったね。」と語れる仲間はここにいる77名だけです。縁あっていろいろな中学校出身の人が口加高校で出会い、3年間、苦楽を共にしてきました。この「横のつながり」をいつまでも大切にしてください。

そして、もう一つ大切にしたいつながりがあります。それは、多くの先輩方との「縦のつながり」です。口加高校で青春時代を過ごしてこられた方々は約2万1000人にのぼります。その数は1902年（明治35年）の口之津女子手芸学校を卒業した先輩方から2019年（平成31年）に卒業する皆さんまでです。これが「縦のつながり」です。今日、同窓会に入会するということは、多くの先輩方とつながったということです。私は昨年4月に赴任して、皆さんの先輩方に会ってきました。関東口加会、関西、中部、博多、長崎、諫早、口之津など日本全国で皆さんの先輩方は活躍されていました。高校を卒業したばかりの19歳から80歳を超えた方々まで幅広い年齢の皆さんの先輩方と語り、一緒に校歌を歌ってきました。同窓会っていいで

すね。卒業から何年たっても、どこに住んでいようとも、同窓会が行われているその時間、その空間は参加者全員が10代の高校時代にタイムスリップされるんです。同窓会っていいですね。年代や世代を越えて、顔や名前も知らなくても口加高校の卒業生というだけで一瞬にして距離が縮まるんです。それが同窓会です。これから多くの人が実家を離れます。長崎県内各地へ、熊本、福岡、山口、高知、名古屋、新潟・・・全国各地に飛び立ちます。どこにいようとも、一瞬にしてふるさとに戻れる、高校時代に戻れる場所、それが同窓会です。これからもここにいる仲間との「横のつながり」と多くの先輩方、そしてこれから入って来る後輩たちとの「縦のつながり」を大切にしてください。71回卒業の代表幹事である岩本阿弓君、馬場愛純さん、よろしくお祈りします。

結びになりますが、口加高校同窓会のますますのご発展を祈念申し上げお祝いの言葉といたします。本日はおめでとうございます。

平成31年2月28日
長崎県立口加高等学校長
狩野 博臣